

わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ わたしを捜さなかった者たちに、見つけられた

第146号

イザヤ 65:1

平成19年11月30日

他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。群集はピリポの話聞き、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし、大ぜいの中風の者や足のきかない者は直ったからである。それでその町に大きな喜びが起こった。ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行なって、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ。」と言っていた。人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。シモン自身も信じてバプテスマを受け、いつもピリポについていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟が行なわれるのを見て、驚いていた。さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。二人が彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに金を持って来て、「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を私にください。」と言った。ペテロは彼に向かって言った。「あなたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れてようとしているからです。あなたはこのことについては何の関係もないし、それにあずかることもできません。あなたの心が神の前に正しくないからです。だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱いた思いが赦されるかもしれません。あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいることが、私にはよくわかっています。」シモンは答えて言った。「あなたがたの言われた事が何も私に起こらないように、私のために主に祈ってください。

使徒の働き 8：4－24

ペンテコステの日にエルサレムで聖霊の油注ぎを受けてナザレ人イエス・キリストをユダヤ人のメシヤと信じた敬虔なユダヤ教徒たちが、ユダヤ教の三大祭りのための巡礼を終え、それぞれの地に福音を持ち帰ったことによって、キリスト信仰はエルサレムから全世界に向かって波紋のように広まっていきました。使徒たちに対するユダヤ人権威当局の迫害が強まっていたエルサレムでも、キリストを信じる者が日増しに増え、主は、使徒たちを通してだけでなく、信者たちのニーズに応え、使徒たちの負いきれない役割を担うために選出され、¹ 送られた御霊と知恵に満ちた評判のよい霊的指導者七人を通して、大きな働きをしておられました。しかし、その一人、ステパノの殉死を境に教会への迫害はいっそう激しくなり、指導者たちはユダヤ、サマリヤへと送り出されていったのでした。これは教会の計らいではなく、やむを得ず多くが散っていくことになったのでした。が、凶らずもキリストの御言葉「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤ、サマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」の成就でした。

古代イスラエル王国の首都サマリヤで主のたいなる業を行っていたのは伝道者ピリポでした。ピリポの話聞き不思議なしるしを見て、多くの者が福音を信じバプテスマを受けましたが、その中に魔術師シモンがいました。ピリポの行くところにいつも行き、一見熱心な信者に見えたシモンはしかし、正しい動機でキリストを受け入れたのではなかったのです。信者になる前、魔術で人々の関心を引き、驚かせ、『神の力を帯びた者』として神の代弁者であるかのように振る舞っていたシモンの動機は、ピリポを通して顕わされるよりすぐれた神の力を自分のものにしたという自分を高めるための手段としての神信仰に過ぎませんでした。おりしも、サマリヤに信仰が広まっているのを聞いたエルサレムの教会は使徒ペテロとヨハネを視察に送り、二人はピリポの宣教でまだ十分でなかった領域、サマリヤの信者たちの聖霊の満ちしと聖霊のたいなる顕われのために祈り、求めた者たちは『イエスの御名によるバプテスマ』に加えて、『聖霊のバプテスマ』を受けるといふ、だれの目にも明らかなたいなるわざが起こったのでした。シモンの不純な動機、野心が掻きたてられたことは言うまでもありません。

すべてが金で動く信じ、聖霊を授ける神の権威を手にしようと使徒に願ったシモンに返ってきたペテロの言葉は、金で神の賜物を手に入れようとする「心が神の前に正しくない」「まだ苦い胆汁と不義のきずなの中にいる」見せかけの信者に対する厳しい警告でした。キリストの名による水の洗礼

を受けても、神の国のくびきを負おうともせず、信仰前と変わらない自分中心の生き方をしていたシモンは、ペテロの目には、聖霊の油注ぎを受ける対象でも何でもなく、たとえ祈られたとしても聖霊に与ることのできない全くの門外漢だったのです。ペテロが、まだシモンの中に根深く巢食っていると指摘した「苦い胆汁と不義のきずな」は、「万が一にも、あなたがたのうちに、きょう、その心が私たちの神、主を離れて、これらの異邦の民の神々に行って、仕えるような、男や女、氏族や部族があってはならない。あなたがたのうちに、毒草や、苦よもぎを生ずる根があってはならない」(申命記29:18)と、神がイスラエルの民に偶像信奉、崇拜の毒として警告されたとき用いられた用語に類似するものでした。パウロは、シモンが金、名声を第一優先にすることによって、真の神ではなく、偶像に仕える者であり、その罪に陥っていることを指摘したのです。シモン自身が自らの罪に気づき、心底から「悪事を悔い改めて、主に祈(らなければ) . . . 心に抱いた思いが赦される」ことはないパウロは戒めたのでした。

ヘブル人への手紙の著者は「聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません. . . だれも神の恵みから落ちる者がないように、また、苦い根が芽を出して悩まされたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように」(ヘブル人12:14-15、下線付加)と、神から離れ偶像信奉に陥る者たちが周りの信者たちに及ぼす多大な悪影響を警告していますが、それはまさに、神がイスラエルの民に律法を与えられたときに厳しく警告されたことでした。偶像崇拜の諸国民が住んでいた約束の地カナンに入り、地、家々を所有する前に、神が繰り返し警告されたことは「もし異教の偶像信奉、崇拜がイスラエルにはびこると、その結末は致命的、民すべての破滅である」ということでした。申命記29章では、18節で語られた偶像信奉、崇拜の毒の危険性が続く19-28節でさらに詳細に記されていますが、そこでは、まず毒の根源が人の頑なな心、邪悪な思いにあることが指摘された後、その毒の生み出すものが破滅であること、神の激怒、のろいであることが語られたのでした。神の掟を守り行なわない者に裁きとして下される神ののろいの言葉を聞いたとき、もし「潤ったものも乾いたものもひとしく滅びるのであれば、私は自分のかたくなな心のままに歩いても、私には平和がある」と心の中で自分を正当化する者がいたら、主は「その者の名を天の下から消し去ってしまう」、すなわち、主は決してそのような者を赦さず、主の怒りとねたみがその者に対して燃え上がると言われたのでした。神の民にもそのような厳しい裁きが下るといふ神の宣告は深刻です。そのような者は、神の民の恵みの中に自分は隠されていて個々人の心の中の醜い思い、動機が知られることはない高をくくっているかもしれないのですが、全知全能の神を侮ることはできないのです。「神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わった上で、しかも墮落してしまうなら. . . いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます」(ヘブル人6:5-8)。

このように今日、シモンのように信仰告白して洗礼を受けた者でありながら過去の習慣をいつまでも引きずっているクリスチャンはたくさんいます。最近手にした本に次のような『ビルとマリーのたとえ』が載っていました。問題点を客観的に見ることは自分を吟味する助けになると思っていますので、概略を邦訳してみました。

ビルとマリーは、子どもたちはすでに独立し、静かな生活を送っている初老の夫婦です。マリーは非常に献身的なクリスチャンですが、ビルは仕事に情熱的で、まだキリストを受け入れていません。マリーの教会で一週間の伝道集会有り、妻に説き伏せられたビルは日曜日の夕拝に参加しました。その日のメッセージの最後に、伝道者は出席者にキリストを受け入れるようにと勧め、受け入れる決意をした者を会場の前列へと招きました。突然、ビルの中にあたかも神の指が自分の心に触れたかのような衝動が起こり、気がついたときには会場の後列から歩き出していました。神の前に自分のすべてがさらけ出され、全く無力で、たださ迷っている状態であることを思い知らされたビルは、キリストの十字架での死、埋葬、甦りがすべて自分の邪悪さ、醜さ、罪のゆえであったことを認め、涙ながらに自分の罪を告白し、キリストを、自分を罪から解放する「救い主」として受け入れたのでした。ビルの劇的な回心に、何年もの間執り成しの祈りをしてきたマリーはじめ主に在る兄弟姉妹たちが歓喜し、主をほめたたえたのは言うまでもありません。その夜、二人が今までにない安らかな眠りにつこうとしていたとき、ビルは突然良心の呵責に迫られて耐えられなくなり、もたえながら、マリーに話さなければならぬことがある、と告げたのでした。それは自らの秘密、隠し続けてきた罪の告白でした。しかし、驚いたことにマリーはビルのジャネットとの不倫な関係、情事にすでに二年前から気づいており、「今夜、主があなたのすべての罪を赦してください、神の子として受け入れてくださったように、私も愛するあなたを赦したのよ」という思いがけない答えが返ってきたのでした。平安のうちにビルが深い眠りに落ちたのは、何年、いや何十年振りのことだったでしょう。翌朝、生まれ変わったビルはすがすがしい気持ちで出勤、妻との関係がキリストを仲介として全く新しい霊的なきずなで固く結ばれたのを強く感じ、主に感謝したのでした。しかし、このようなビルの新生の人生を非常に不快に思い、すべての手段を用いてこわそうと機会を狙っている暗闇の支配者、サタンがいることを忘れてはなりません。まだ私たちは、善と悪が共存する「この世」に生きているのです。一週間ほど経ったころ、ビルの秘書がジャネットがいつものように会社に来たことを伝えます。「ジャネット！」秘書の声にビルの体から血の気が引き、ビルの頭の中を「どうしよう、ジャネットが来た！」が反響し、ただ混乱、狼狽に陥ってしまったのでした。霊の戦いの備えができていないままに、ビルは過去の罪と対面することになるのです。ここで、この『たとえ』は終わっています。このたとえのポイントは、ビルのように過去の罪を完全に断ち切っていないクリスチャンが多いということです。マリーに罪の告白をして赦され、解放されたと思っても、ビル自身が意を決して、不倫な関係にあったジャネットとの関係を主イエス・キリストの名によって完全に断ち切らない限り、サタンは過去の罪を復活させるすきをいつもうかがっているということです。神の御国に入る者を何としても妨害しようとあらゆる手段で挑戦してくるサタンを手厳しく突き放さない限り、過去はまだ未解決なのです。